

奈良県黒滝村における学生による学習環境調査

小 松 原 尚

1. 調査の概要

本調査は、地域志向教育研究の一環として「地域の産業を素材とした学修活動のための教材研究」を進める奈良県立大学地域創造学部小松原研究室が行った、奈良県黒滝村における学生による学習環境調査である。

地域志向教育とは日常の講義、すなわち座学で学んだことを大学の外で学生自らが実際に確認する教育である。同時に、学生が訪れた地域において、その活動がそこで生活する人々にとっても暮らしつづけるための刺激となるものである。そして、学生自身も自らの活動が社会化されることに気付く学習活動の一環でもある。

また、この調査の対象となる学習環境とは、学生諸君の学びの場と教育活動のための素材である。また、この種の教育活動においては、座学で得た知識を踏まえ、実体験を通して定着させることも大切となる。そのためには行政機関や工場・作業での担当者からの聞きとり調査や見学など、体験的調査活動も併せて実施する。

今回の調査対象地とした黒滝村は、杉材の生産においてわが国にあって強い市場競争力を有している地域の一翼を構成している（山本,2014：113-114）。その高次な生産を支える地域的基盤を学生諸君がどの程度理解できるかが調査の要となる。

尚、この度の調査活動にあたっては黒滝村の皆様のご協力を賜った。中でも黒滝村役場では、村長の辻内幸二様をはじめ、副村長・高野馨様、総務課

調査報告

長・植田忠三郎様、同課係長・北村巨樹様にご大変にお世話になった。記して感謝申し上げる。

2. 調査の目的

〔1〕黒滝村において、地域志向教育の可能性を探る。

〔2〕小松原の関連講義での学習活動を踏まえ、実態観察を行なう。

〔3〕産業・生業と地域の暮らしとの関わりを考察する。

3. 調査の方法

調査補助員（小松原研究室分属学生）による環境観察と対象者からの聞きとり調査による。

4. 調査の内容

〔1〕会場との往復バス移動中における車内外観察調査としては、1) 景観資源調査は、車窓から眺められる景観で、興味のあった地点とその内容を記すもの。2) 危険発見調査は、交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容を記すもの。3) 車内学習環境調査は、学習の場として、バス車内を利用する場合に、①学生が予め準備しておくべきこと、②車内装備としてあったらよいと考えられるもの、③車内で安全にくつろぐための留意点の3点にわたり具体的に記すものである。

〔2〕事業所・団体での聞きとり調査としては、1) 内容把握度の観点は、学生が、提供された情報や資料に関してどのように理解できたかを自らをふり返り記すもの。2) 学習関連性の観点は、「経済地理学」や「観光地理学」の学習内容とどのように関連づけられるかを考えるもの。3) 好奇心刺激度の観点は、発言内容から、新たな知見をどの程度得られたかを確かめるものである。

〔3〕黒滝村では興味深い資料を数多く頂戴した。それらの収集した資料を学生自らの視点・観点によって「学生による黒滝村での収集資料の特長」と



役場前にて

してまとめてみた。この項の取りまとめに関しては、現地での調査には参加しなかった学生からも意見聴取した。

5. 調査日：2015年2月17日

6. 調査実施主体：奈良県立大学 地域創造学部 小松原研究室

【参加者氏名】

調査補助員（学年はいずれも調査参加時点のもの）：

伊島萌乃、谷口奈々美、林夏美（以上、2年）

大下紗季、端野良介、谷内義和（以上、3年）

地域交流室同行者：柏本栄一（地域交流室チーフスタッフ）

引率教員：小松原尚（教授、経済地理学担当）

【参加者の費用負担】

①交通費はバス乗降場所までの往復運賃を要する。目的地までの往復交通費は大学負担とする。②昼食は各自で用意する。

【行程】

[往路] 近鉄奈良駅（春日ホテル前）＝JR 奈良駅（西口）＝黒滝村役場		
9:00	9:10	11:30
[復路] 黒滝村役場＝JR 奈良駅（西口）＝近鉄奈良駅（春日ホテル前）		
15:30	17:50	18:00

7. 関連講義(2014年度のもの)

「経済地理学」

第2講：米（稲作）生産からみた日本農業

第3講：野菜・果樹産地の存立形態と変遷

第4講：加工用原料農産物の生産地

第5講：繊維工業、地場産業、雑貨工業、伝統産業

「観光地理学」

第13講：奈良県-その観光地としてのイメージ

第14講：十津川村-世界遺産と企画ツアーの試み

調査報告

【参考文献】

小松原尚（2007）『地域からみる観光学』大学教育出版。

平井誠（2008）：人口集積とその動向（所収 竹内淳彦編『日本経済地理読本（第8版）』東洋経済新報社：17-26）

山本俊一郎（2014）：京阪神地域（所収 竹内淳彦・小田宏信編著『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社：102-117）

※この調査活動には、平成26年度大学改革推進等補助金（地（知）の拠点整備事業）「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」の一部を使用した。

〔1〕会場との往復バス移動中における車内外観察調査

1. 景観資源調査

【活動事項】

車窓から眺められる景観で、興味のあった地点とその内容をいくつでも記す。

調査者番号	観察内容
1	樫原あたりで、ため池のような広い空間が数多く見られた。黒滝村周辺には非常に綺麗な透き通った川が多かったが、そのすぐ上流に酷く濁っている川があったりして、なぜ下流が透き通っているのか、なぜ上流が濁っているのか、不思議に感じた。木が伐採された結果で荒れた山なのかなんか分からないが、木が全く無い山があったため、このタイミングでもし雨が降ったら大規模な土砂災害が起こる可能性もあるのではないかと感じた。
2	御所の辺りから、建築物や看板などの目につくものに古さを感じ始めた。さらに急に道幅がせまくなっていた。 大淀町から下市町辺りの地域には信号が少なく、時間帯によるかもしれないが歩行者や外に出ている人が見られなかった。閑散とした印象を受けた。

3	<p>①奈良市の大安寺あたり（754号線）では、車関係の店が目立った。大和郡山市の発志院町あたりからは、物流関係の会社が目立った。</p> <p>②シャープの近くに食事処が多くあったことと、橿原イオンモール周辺は店舗面積が広い店が多いことから、中心となる企業や商業施設の存在の大きさを実感した。</p> <p>③耳成山がうっすらと見えた。</p> <p>④309号線から道路が山に囲まれており、標識が隠れるぐらい木の枝がはみ出している箇所もあった。走行車は、ほとんどトラックだった。山奥で霧が立ち込めていたのが印象的だった。</p> <p>⑤下市町は、小さな商店が道路沿いに多く立ち並んでおり、市場町として発展したことを思わせる独特の雰囲気がある。しかし、シャッター商店街に近い状態だった。著をつくる会社が3社もあった。「広橋梅林」の看板と旗が目にとまった。調べてみたところ、県内で有名な梅林だそう。神社で馬を見るのは初めてだったので、丹生川上（にうかわかみ）神社下社の神馬に驚いた。</p> <p>⑥(株)徳田銘木の磨き丸太がきれいだった。黒滝村には「〇〇銘木」という会社が3社あり、「森林の村」であることを実感した。</p>
4	<p>黒滝村内では、住宅が並ぶ道を通ったが、その住宅の多くが、外装に木材が使われていたことが興味深かった。村ならではの景観を眺めることができたと思う。</p>
5	<p>京奈和道路に、何も書かれていない緑の案内表示板があった。国道309号線の集落の部分は商店が多数あったので、まるで商店街を走っているかのようだった。黒滝村は見渡す限り針葉樹林がある。</p>
6	<p>黒滝村の製材所。表面だけカンナで整えられた材木が積み上げられていた。乾燥も黒滝村内で行うのだろうか気になった。</p>

調査報告

2. 危険発見調査

【活動事項】

交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容をいくつでも記す。

調査者番号	観察内容
1	高い場所を走っている道路でも、ガードレールが非常に低い場所が多く見られ、怖いと感じた。それは山道でも高速道路でも関係なかった。行きの高速道路に乗る前、工場が多いからだと思われるが、バスが大型トラックに囲まれることがしばしばあり、周囲がよく見えず危険だと感じた。
2	山道では、カーブが多く見通しが悪いにもかかわらずカーブミラーが少ない。片道車線が多くあり、譲り合わないと通れない。さらに工事が何ヶ所かで行われていたため、道幅の狭い道路で大型の工事車両とすれ違うときは慎重に進まなければならない。
3	道路渋滞はなく、スムーズに目的地へ到着した。ただ、下市町のあたりから交通上、危険だと思われる箇所があった。下市町は道が狭く、歩道がない箇所があること。また、がけ崩れ防止対策がされていない道路があり、雨天時の土砂崩れの危険が懸念される。黒滝村に近づくにつれ、道路工事で狭くなっている道が多いように感じた。
4	村内に入ると、険しい山道と、道路の狭い住宅の並ぶ道路ばかりであったため、熟練のドライバーに運転を依頼する必要があると思った。
5	柏原バイパスは路面の高低差が激しい。京奈和道路の中央分離帯がポールで、片側1車線だった。国道309号線の集落の部分は旧市街地でかなり曲がりくねっていた。国道309号線の広橋トンネルは非常に暗く、カーブしているため、見えにくい。

6	吉野郡に入った直後にあった商店や家屋のすぐ目の前を道路が通っている箇所。歩道はなく、あまりに家屋と道路が近く、その道路の道幅も狭かった。大型のバスが走行する場合、歩行者などに特に気を付けなければならないと感じた。
---	--

3 車内学習環境調査

【活動事項】

学習の場として、バス車内を利用する場合を想定した調査

(1) 学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	準備内容
1	小さめのペットボトルでは足りなかったため、少なくとも500mlは飲み物を持ってきたほうが良い。エチケツト袋は必須。折り畳み傘もあると安心。車内でメモを取るとやはり酔ってしまうが、一瞬でパツと書けるような小さなメモを用意しておけば、車内でも酔わずに書けたかもしれない。
2	山道やカーブの多い道路では、普段バス酔いをしない人でも酔い止めを飲んだほうがよい。
3	京奈和道を降りると、バスが揺れるようになってくる。玉手辺りからは道も狭くなり、カーブも増えてくる。そのため、酔い止めは必須である。酔い止めの副作用で、のどが乾きやすくなるので、飲み物とマスクを準備しておくといよい。睡眠を十分に取って望むようにする。眠気覚ましのために、グミやアメ等を用意しておくといよい。
4	よく寝ておくこと（車移動は眠くなりやすいため）酔い止めを服用しておくこと（カーブの多い道を通るため）
5	車内でのメモにはフィールドノートが有効である。現地への行き方を地図等を使って確認しておく。山間部を移動中は携帯電話の電波が安定せず電池残量が低下しやすいのでポータブル充電器を持参する。

調査報告

6	今回はほとんど高速道路を使わなかったので、渋滞に遭遇することをあらかじめ考慮しておくべきだと思った。また、休憩が一定の場所で取れないため、特にお手洗い、飲み物などには気を付けなければならないと感じた。
---	--

(2) 車内装備としてあったらよいと考えられるもの

調査者番号	準備内容
1	何市に入りました、黒滝村に入りました、等の細かいアナウンスがあると嬉しい。コンセントがあると、携帯が充電できた。携帯で写真をたくさん撮っておこうとしてしまい、充電が無くなって帰りに家に連絡できなくなってしまった。
2	紙や筆記具が置けるテーブルなど。どの経路で向っているか気になったので、出発地点からの地図などがあったほうがよいと感じた。
3	特に不便することはなく、快適に過ごすことができた。強いて言うなら、テーブルが装備されていれば、より便利だと思う。
4	エチケット袋（山道のような陰しい道であると車酔いしやすいため）
5	ペットボトルホルダーは便利である。外部の音はあまり聞こえないので、大きくない音量の落ち着いた車内BGMがあってもいいかもしれない。
6	読書灯があれば、暗くなってからでも記録がとりやすいと感じた。固いバインダーか、机があれば車内でも記録がしやすいと感じた。

(3) 車内で安全にくつろぐための留意点

調査者番号	準備内容
1	空気が汚くない場所で窓を開けて車内の空気を入れ替えることが必要。二人席を1人で使って座るほうが、はるかに快適に過ごせる。
2	シートベルトの着用。文字を追うとバス酔いしやすいので、できるだけ頭でまとめてから書くようにするなど。
3	①揺れる車内での筆記作業になるので、肩に力が入りやすい。肩の力を抜いてリラックスするようにすると、疲れが出にくい。休憩時には、シートベルトを外し、伸び等をするのがおすすめ。②乗り物酔いをしやすい人は、前の席かつ窓際の席に座るようにすると、乗り物酔いしにくい。③バスの発進時と走行中は、できるだけ席を立たないようにする。
4	シートベルトを着用する。
5	シートベルトは確実に締める。飲み物はペットボトルのような蓋ができるものを使用する。
6	あらかじめ準備しておくことにも記載した通り、休憩が決まるとは限らないのでお手洗いは済ませておく。また、あらかじめ大体どのルートで目的地に向かうか知っておくとよい。さらに、スマートフォンなどがあればGPS機能と地図アプリを使って簡単に現在地を知ることができる。

[2] 事業所・団体での聞きとり調査

1. 内容把握度の観点

【活動事項】

学生が、提供された情報や資料に関してどのように理解できたかを自らをふり返り記す。

調査報告

調査者番号	観察内容
1	<p>黒滝村は、まだ観光地としての取り組みや工夫などは進んでいないのだと私は感じた。明日香村と比較して考えてみたのが非常に分かりやすかった。「ふれあいバス」に関しては観光的な面（見た目、インパクト）で見ても、機能性（本数、乗車可能人数）で見ても、まだまだ改善できるのではないかと感じた。ご近所同士のつながりが濃い、豊かな自然に囲まれている、村の人が大好きな黒滝村の良さもたくさん伝わってきたが、人が減っていく、山の持ち主がはっきりしていないものも多い、などの問題点に対する改善点のようなところも、役場の人たちとの会議の中でぼんやりと見えてきたような気がしている。</p>
2	<p>黒滝村は古くから林業が盛んであったが、木造住宅の不振や代替材の増加などでその需要は低迷している。問題だと感じたのは、林業に携わる労働者の高齢化と世代交代だ。林業の低迷に伴い次の世代へ引き継がない人が増えており、森林の七割は大手の所有である。さらに黒滝村では高齢化と人口減少が進んでいる。そのため、車が必要なことやバス廃止に対する交通の不便さが顕著になっていると感じた。またその不便さが、地域の集まりや関わりを阻害することにもなっている。村民のためのバスはあるがそれがどのように活用されているのか知りたいと思う。黒滝村の課題は一つではなく、それぞれの課題が関連して現状になっている。その解決には地域の力、人の力が大きく関係すると感じた。</p>
3	<p>吉野杉は、東吉野村、川上村、黒滝村の3村のみで産出される。今まで、吉野郡一帯で産出される杉が「吉野杉」と勘違いをしていた。私以外にもこのような勘違いをしている人が多いかもしれない。吉野杉の知名度を黒滝村の知名度向上につなげていく必要があると考える。県内の各種イベントを通じて、こんにゃくや大和野菜といった特産品を活かし、PRする余地はおいにあると考える。人口の統計データと村長のお話から、黒滝村の過疎化が深刻であると理解した。</p>

4	黒滝村は、人口減少の一途を辿っており、少子高齢化も進んでいる。その対策として、自治体が子どもの学費や給食費、医療費などの養育費を負担していることが分かった。また、食料店が1店しかない上に、奈良交通バスが村内を走っていないため、高齢者の買物難民がいる。そこで、村営の無料ふれあいバスを巡回させていることを理解した。そして、黒滝村は、林業がさかんで、吉野杉の生産・加工が為されてきたが、後継者不足であることが分かった。
5	村の97%が山林である黒滝村では主に家具向けの木材の加工がなされている。人口が減り続けており、子供の教育費や医療費の完全無償化などの施策を行っている。
6	配布されたいくつかの資料の中で、特に黒滝村内の地図が印象深い。交通インフラ、特に道路事情があまり良くないこと、買い物をするための商店は日用品を扱う店しかないことなどがよくわかった。また、生活のために下市町などほかの自治体とも協力しなければならないことがよくわかった。

2. 学習関連性の観点

【活動事項】

「経済地理学」や「観光地理学」の学習内容とどのように関連づけられるかを考える。

調査者番号	観察内容
1	二つとも受講したことがないので私はどのような学習内容かあまり分かっていないと思うが、教科書を見てみた感じでは、黒滝村や周辺地域の若い人々がどんどん外へ行ってしまうことによる「人口移動の地域的關係」は学習内容と関連づけられると考えられる。また、インフラの整備がまだできていない黒滝村の現状も学習内容と関連付けて考えられそうだ。今回黒滝村へ行った我々はどちらかという都市生活者である

	<p>が、その我々からみた黒滝村などの山間地域には都市では味わえない魅力も多々あり、不便なところも多々ある。これを上手く活用して観光と繋げていけるよう考えてみようというのが観光地理学なのではないだろうか。</p>
2	<p>近畿地方ではあまり突出した産業がなく、工場地帯も衰退してきている。農業・林業も低迷しているものの、ブランド力を活かした産業は長期にわたる重要な地域振興策である。また観光においては、観光客がイメージする山間部の観光地と当てはまる部分があると考えられる。しかしながらその部分は森林や川といった自然の存在であり、その他の点でも観光客を誘引する必要があると感じた。</p>
3	<p>黒滝村は、豊かな森林資源を産業だけでなく、観光にも活かす取組をしている。この点は、「観光地理学」14講と関連付けることができる。黒滝村が観光地として不利な点は、交通アクセスが悪いことだと考える。紀伊半島は新幹線が通っており、県南部に高速道路はない（『詳解現代地図』平成24年発行 114頁⑦）。しかし、この不利な点が魅力につながる可能性もある。都市住民に対する山間地域についてのアンケート調査では、都市住民にとって人里離れた豊かな自然へのニーズが高いことが分かった。つまり、交通機関が発達していないことは、その分自然が多く残されているということでもある（『地域からみる観光学』118-127頁）。黒滝村の自然の資源をどのように活用していくかが重要である。また、黒滝村の基幹産業が林業である点から、「人文地理学」と関連付けることができる。「人文地理学」では、日本の林業が構造不況にあることを学んだ（『改訂新版ジオグラフィー入門』平成20年発行 80-81頁）。今回の調査で、黒滝村も例外でなく、他の山林地帯と同様の問題を抱えていることが分かった。例えば、林業の担い手の高齢化、木材の需要の縮小等である。</p>
4	<p>経済地理学との関連：経済地理学では、人口移動と地域格差について「過疎化が進む山間村では人口減少の結果商業、医</p>

	療サービス、商店、学校などが成り立たなくなっており、さらにコミュニティの崩壊が進んでいる」(平井,2008,p.25)という現状があることを学習した。黒滝村役場の方々から村の抱える問題について話を伺ったが、経済地理学で学習した人口移動による問題と深く関連していた。
5	黒滝村には電車が通っておらず、車に頼らざるを得ない。道路は曲がりくねっており、長時間乗車する事になる、それが黒滝村の接触ポテンシャルを低下させている。
6	経済地理学とは、人口集積や人口移動という点から関連付けられる。また、林業が盛んな土地であるという点は、内陸産業という視点から経済地理学と関連付けられる。 観光地理学とは、環境の多様性・そして吉野杉の生産地として関連性がある。

3. 好奇心刺激度の観点

【活動事項】

発言や案内の内容から、新たな知見をどの程度得られたか。

調査者番号	観察内容
1	同じ日本という国の、同じ県の中に、お風呂の沸かし方が全然違ったり、買い物に行くのも一苦労な生活をしている人々がいるということを、知ってはいたが、やはり目の前で話されると感じ方がだいぶ違い、ものすごく身近な存在に感じた。家の鍵をかけずに生活していても問題ないというのが驚いたと同時に、犯罪がほぼ無いのだろうと感じ、そんな安心な素敵な地域が今でもあるのだと驚いた。また、役所の人ちゃんと我々学生や先生の意見を聞いてくれていることに感動し、「役所の人」へのイメージが少し変わった。「若い人が来てくれるのを楽しみにしていた」と語る村長さんが印象的で、肌を通して村の寂しい現状が伝わってきた。

2	<p>吉野杉というブランドは高くないと売れない一方で、高いため買い求めにくいという意見があらわれた。ブランドの消費者をどこの層へ設定するかが重要である。また、道路整備の点では、隣接する市町村にとって奥へ進む道であるため整備がなかなか進まないなど、村内だけでは解決できない問題が大きく印象に残った。黒滝村の問題であっても周辺の協力がないと解決はできない。しかし人口減少に伴う空き家の増加を利用して、新たな流入へのきっかけをつくるなど、地域を振興するためにさまざまな方面から取り組んでいると感じた。</p>
3	<p>黒滝村は、林業、集落、観光と大きく3分野の課題を抱えていることが分かった。以下、順に3つの課題についてまとめる。</p> <p>まず、林業においては、山が廃れるという課題がある。吉野林業の特徴として、山林を保護管理する山守制度があるが、世代を経て山が放置され、管理が行き届かなくなりつつある。森林組合も所有者を把握できていない山がある。次に、集落においては、少子化と人口減少問題がある。1965年から2014年の間に、約3分の1まで人口が減少している。これを受けて、黒滝村は、移住定住の推進に取り組んでいる。例えば、学校の授業料を無料にする、空き家を貸す、住宅の新增築のための支援金交付等がある。また、人口減少に加え、住宅がまばらに立地しているため、高齢者が近所の人たちとのコミュニケーションを取る機会が少ない。住民の中には、誰とも会話をすることなく、2、3日が経つこともあり、高齢者がさみしい思いをしているという。最後に、観光においては、インバウンド旅行の対応、交通アクセスに課題が残る。黒滝村を身近に感じてもらえるよう、情報発信を工夫していく必要がある。</p>
4	<p>元気なお年寄りほど、介護等の必要がないため、人との交流がなくなっているということを聞き、元気なお年寄りは、身も心も健康で活発に過ごしていると思っていたため、こういった現状があるということはとても驚きであった。また、</p>

	黒滝村は、県外の人だけでなく、奈良県北部在住の人にも認知がされていないということも衝撃的であった。奈良県の人々が県にどのような地域があるかを把握・認知しきれていないというのは、とても深刻な問題であるように思った。
5	車が必需品である。人口一人当たり一台所有している。外国人が来ることもあるがインバウンドの対応はできていない。オール電化の家庭もある。山の上でのイベントにはプロパンガス用の発電機を使用する。黒滝白キュウリが特産である。歴史的なものが何もないので「吉野隠し」の名もある。森林組合で山林を管理しているが、所有者不明の山が30~50ある。木の板を五角に組み合わせる技術は職人にも不明である。
6	山間地であり、食料品以外の買い物絵筆をほかの市町村に頼っている黒滝村だが、地域住民が少しでも生活しやすくするために、村内にコミュニティバスを走らせて買い物難民を生み出さないようにしたり、子供に対する手当てを充実、特に義務教育の無料化を行い、地域の人々を助けるための福祉が充実しているということを知った。また、今後担い手が減ってきた林業による山の整備が課題であることがわかった。

[3] 学生による黒滝村での収集資料の特長

資料名	学生	特長
黒滝村 村勢要 覧資料編	a	黒滝村の概況や人口、福祉、財政、行政のしくみ等が、図やグラフ、数的データを用いて細かく記されている。
	b	改行や鍵かっこ、表などを上手く使うことで、写真がなくても読みやすく分かりやすい資料になっている。

調査報告

	c	黒滝村の全体像をデータや数字から考えられる資料である。何かに特化した統計ではないため、黒滝村の人口から生活、教育環境、財政などまで分かり、どのような状況であるのかが客観的に理解できる。
	d	黒滝村の人口、福祉、財政状況等の各表が掲載されている。世界遺産の大峯奥駈道の他、7つの文化財を有する。
奈良のへそ 黒滝村へ Let's Go!!	a	「黒滝・森物語村」、「きららの森・赤岩」、「道の駅吉野路黒滝」についての説明が記載されている。また、黒滝村の地図をはじめ、主要なお店や施設の電話番号も記載されている。
	b	全体的に字が少なめ、写真が多めで優しい色合いでゆったりと書かれているため、写真を見れば内容まで分かるというくらい読みやすい。マップも字が大きめで読みやすい。
	d	黒滝村の簡略な地図が掲載されており、観光スポット、食事処等の把握がしやすい。黒滝村では、豊かな自然の中でアウトドアを楽しむことができる。
くろたんと歩こう 黒滝ハイキングガイド	a	3つのハイキングコースがあり、表面にはコース概要、距離、所要時間、絵地図等があり、裏面には、等高線型の地図と、コース別の各ポイントまでの距離と時間、高低差を表した図が載っている。
	b	ハイキングコース別で標高や歩く時間がグラフで書かれており、イメージしやすい。どこに何があるのかを写真やイラストで細かく示しているので、歩きながら場所を確認しやすいだろうと感じた。

	d	3つのハイキングコースについて、各地点に到達するまでの所要時間が詳細に掲載されている。ハイキングを通して、黒滝村の歴史に触れることができる。
奈良のむかしばなし 百貝岳の大蛇	a	百貝岳の大蛇のおはなしと、猿沢池近くの新飯殿町の名前の由来が書かれている。
	b	タイトルに合った字体や雰囲気で作られており読みやすい。
	d	平安時代前期の名僧である理源大師とそのゆかりの文化財について、詳しく知ることができる。新飯殿町の町名の由来は、箱屋勘兵衛（はこやかんべえ）が、奈良から大師の好物である餅と飯（いい）を大師のもとに持参していたことによる。
森林の村 黒滝	a	森林の役割や吉野林業、森林の用途などが詳しく説明されている。
	b	森や木を意識したデザインで内容が頭に入ってきてやすい。全体的にイラストが多く、字はそれほど多くないため、一つ一つの文字の塊がすぐに読めてしまう。
	c	黒滝村の森林だけを取り上げており、他の資料では分からない吉野林業の特徴や流れが、簡潔に理解できるようになっている。
	d	森林の役割や吉野林業について、イラストを用いて分かりやすく説明されている。吉野の樽丸製造技術は、重要無形民俗文化財に指定された。

調査報告

ー林業とともに ーあふれる緑 ふるさと黒滝	a	高齢者向けの福祉活動や乳幼児向けの福祉活動、さらには様々なボランティア活動が、写真を多用し、紹介されている。
	b	森の交流館、きららの森、黒滝・文化とスポーツの森、おもちゃ図書館、地域に広がるボランティア活動の輪、などのページは写真がたくさん使われており、またその写真が人々の素敵な笑顔の写真であったりカラフルであったりしたため、私は気に入った。またポップなカラー、字体を使っているページもあれば、シンプルかつシックな雰囲気でもまとめているページもあり、表紙を見た感じでは真面目そうな冊子だが、読んでみるとメリハリが効いていて読みやすいと感じる。一方で村勢要覧資料編は、地図や表、グラフなどを駆使していることで、少し字が細かくなっていたとしてもシンプルでパッと見ても何が書いてあるのかわかりやすく、スラスラと読みやすいものになっている。
	c	林業を中心に黒滝村を紹介しており、林業から育まれた黒滝村の歴史や活動を取り上げている。さらに黒滝村の施設や特産品など、自然豊かな地域であることが窺える内容である。
	d	黒滝村の林業や暮らしの魅力を、豊富な写真で紹介している。住民活動の紹介ページでは、村の人と人とのつながりが伝わってくる。

大自然のふと ころで遊ぶ・たべ る・なごむ おかえりなさい、森のオアシスへ	a	主に「黒滝・森物語村」、「きららの森・赤岩」、「道の駅 吉野路黒滝」についての情報が載っている。『奈良のへそ 黒滝村へ Let's Go!!』よりも、より強く写真で訴えかけている。周辺の観光情報も写真とともに、記されている。
	b	写真が多く、またカラフルなイラストと背景の色の切り替えのバランスが絶妙であるため、楽しく全面を読めてしまった。
	d	「黒滝・森物語村」について、写真を豊富に掲載して紹介している。名物「ししコロッケ」や「しし串」、「串コンニャク」等を気軽に楽しむことができる。
飛驒産業株式会社	a	吉野杉に新たな木材圧縮技術を施して、新商品の開発・販路開拓を行う会社の、研究開発の背景やスケジュール、予算計画、マーケティング等が示されている。
	b	白黒コピーであるため細かい木目などの写真はあまり読み取れないが、字が大きく、そのページでは何について書いてあるのかが明確に記されていて分かりやすい。程よい量の写真や表、グラフ、イラスト等があるおかげで、書かれている内容のイメージが伝わってきやすい。
	d	家具を製造販売する飛驒産業株式会社の吉野杉活用に向けた事業計画である。吉野杉や杉材全般における問題点とその解決方法等が詳細に記載されている。商品を販売するターゲット層や競争力をふまえた価格設定をしており、販売戦略が明確である。

調査報告

吉野チェンソー アートスクール 事務局 東京→黒滝村 よく働き、よく 食べよく眠る生 活です。	a	東京から黒滝村にやってきた男性の紹介記事。 Q&A 形式でも書かれている。
	b	字が少なめで読もうと思ひやすく、写真や写真の 説明文だけでも文以上の内容が想像できるようにな っている。
	d	奈良県外で生まれ育った人の奈良に対する考えを 知ることができる。黒滝村の自然は、大きな魅力 になっている。
奈良 下市町・ 黒滝村 じゃらん	a	黒滝村のおすすめの食堂メニューが記載されてお り、この資料は下市町についての情報も載ってい る。さらに、地元民が考えた下市町＆黒滝村のお すすめのモデルコースが3つ紹介されている。
	b	手書き風の字やイラストで目を惹くデザインにな っているだけでなく、黒滝村と下市町で全体的 に色を分けているため、字が多くても、写真が 多めで余白があまり無くても、読みやすいよう になっている。裏表紙の、地元民が考えました!と いうところは、対象者を絞って地元民の声を元に プランを載せているため、非常に興味が湧いた。
黒滝村全図	b	黒滝村だけの地図と、奈良県全体の地図のなか に見る黒滝村の地図があり、場所が分かりやす い。細かなところまで地図記号がしっかり書い ていて見やすい。色合いが、目がチカチカしな い見やすい色になっている。針葉樹林ばかりだ が、よく見るとたまに広葉樹林があるところに 興味をもった。
	d	黒滝村全体の地理的特徴を把握することができ る。村の9割以上を森林が占めるということも あり、道路はほとんど通っていない。公共的な 施設は、寺戸に集中している。

黒滝村について 研修資料	c	黒滝村の現在について、特徴となる項目に分けて説明されている。特に文化財について多く書かれており、黒滝村の歴史的な重要性についても理解できる。また林業や漁業などの産業の点についても書かれている。この二つの説明にはそれぞれ現在の状況や活動といったこれまでの経歴が記されているため、黒滝村が振興するにあたってどのような課題があるのかを明確にすることができる。さらに人口の項目についても、他の資料がただ人口減少や少子高齢化を数値で表しているのと異なり、幼稚園や小学校の沿革から若者の人口減少を見ることができるという特徴がある。
	d	黒滝村の文化財、産業、人口等の概要がコンパクトにまとめられている。村面積の97%を森林が占める。
黒滝村の概要	d	黒滝村の概要や取組について簡潔にまとめられており、最新の人口・世帯数の統計資料がある。黒滝白きゅうりが大和野菜に認定されている。
黒滝ビリケンが完成、黒滝村木造ビリケン像光背用材の年輪年代測定結果（報告）	b	新聞コピーのほうは写真が大きく、パッと見て何の話題かわかりやすい。黒滝村木造ビリケン像光背用材の年輪年代測定結果（報告）のほうは、書いている内容は少し難しいが、最初に「調査概要」で測定結果がまとめられているため読みやすくなっている。調査対象試料の画像が載せられていることでどのような調査が行われたのかも分かりやすい。
	d	黒滝ビリケンが完成した当時の状況を知ることができる。また、「年輪年代調査結果報告について」より、黒滝ビリケンの光背用材の年輪年代調査結果が詳細に分かる。黒滝ビリケンは、村制100周年を記念したものである。

調査報告

どうして生まれたか、福の神“ビリケン”	d	ビリケンの起源の一説を知ることができる。ビリケンが現在の位置づけに至るまでの変遷をつかむことができる。ビリケンの発祥は日本ではなく、アメリカである。
---------------------	---	--